

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

● 入学定員設定の考え方

入学定員設定の考え方については、工学部、情報工学部、社会環境学部の最近5年間における志願者数や入学者数の状況、求人件数や就職者数の状況、福岡県を中心とする近県の高等学校に在籍している高校生に対する進学需要調査、さらには、福岡工業大学の卒業生の採用意向調査の結果による数値などを総合的に踏まえるとともに、特に、最近における入学者の受入実績と校舎等施設をはじめとする教育研究環境の整備状況を踏まえたうえで、各学科における入学者選抜の機能が低下しない範囲内での入学定員を設定することとした。

各学科の入学定員設定の考え方は、次の通りである。

◆ 工学部

1) 電子情報工学科

電子情報工学科における最近5年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員80人に対して、志願者数約525人、志願倍率約6.6倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近5年間の就職率の平均は、約93.4%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を80名から90名へと変更することとした。

2) 生命環境科学科

生命環境科学科における最近5年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員80人に対して、志願者数約549人、志願倍率約6.9倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近5年間の就職率の平均は、約92.9%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を80名から90名へと変更することとした。

3) 知能機械工学科

知能機械工学科における最近 5 年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員 100 人に対して、志願者数約 658 人、志願倍率約 6.6 倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近 5 年間の就職率の平均は、約 98.7%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を 100 名から 110 名へと変更することとした。

4) 電気工学科

電気工学科における最近 5 年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員 80 人に対して、志願者数約 600 人、志願倍率約 7.5 倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近 5 年間の就職率の平均は、約 97.3%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を 80 名から 90 名へと変更することとした。

◆ 情報工学部

1) 情報工学科

情報工学科における最近 5 年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員 120 人に対して、志願者数約 751 人、志願倍率約 6.3 倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近 5 年間の就職率の平均は、約 92.7%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を 120 名から 130 名へと変更することとした。

2) 情報通信工学科

情報通信工学科における最近 5 年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員 80 人に対して、志願者数約 404 人、志願倍率約 5.1 倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近 5 年間の就職率の平均は、約 96.6%となっていること

から、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を80名から90名へと変更することとした。

3) 情報システム工学科

情報システム工学科における最近5年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員80人に対して、志願者数約511人、志願倍率約6.4倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近5年間の就職率の平均は、約94.4%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を80名から90名へと変更することとした。

4) システムマネジメント学科

システムマネジメント学科における最近5年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員60人に対して、志願者数約333人、志願倍率約5.6倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近5年間の就職率の平均は、約94.5%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学者選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を60名から65名へと変更することとした。

◆ 社会環境学部

1) 社会環境学科

社会環境学科における最近5年間の志願者数、志願倍率の平均は、入学定員150人に対して、志願者数約552人、志願倍率約3.7倍で、入学者選抜の機能を保ったうえで入学定員を満たしている。また、最近5年間の就職率の平均は、約94.7%となっていることから、学生の確保と卒業後の進路における十分な実績を有している。

一方、教員組織においては、授業の内容や授業の方法、施設や設備の状況、実験・実習の指導体制などの教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる人数による指

導体制を構築している。

これら入学者の受入実績及び卒業生の就職実績と教員組織の整備状況を踏まえるとともに、特に、最近における志願者数の上昇を勘案し、現在の入学選抜の機能が低下しないことに留意したうえで、入学定員を150名から160名へと変更することとした。

● 収容定員を増加する学部等の志願者状況及び入学状況

収容定員変更を計画している工学部、情報工学部、社会環境学部における最近5年間の志願者状況と入学状況は、以下に示す通り、18歳人口の減少期においても安定した数値を維持していることから、収容定員を増加した場合においても、学生確保については十分に見込めるものとする(資料1)。

◆ 工学部

1) 電子情報工学科における最近5年間の志願者数等の実績

電子情報工学科における最近5年間の志願者数の実績は、平成21年度は入学定員80人に対して志願者数443人で志願倍率は約5.5倍、平成22年度は入学定員80人に対して志願者数480人で志願倍率は約6.0倍、平成23年度は入学定員80人に対して志願者数573人で志願倍率は約7.2倍、平成24年度は入学定員80人に対して志願者数548人で志願倍率は約6.9倍、平成25年度は入学定員80人に対して志願者数580人で志願倍率は約7.3倍で推移している。

また、電子情報工学科における最近5年間の入学者の状況は、平成21年度は入学人数96人、平成22年度は入学人数93人、平成23年度は入学人数95人、平成24年度は入学人数96人、平成25年度は入学人数91人となっている。

2) 生命環境科学科における最近5年間の志願者数等の実績

生命環境科学科における最近5年間の志願者数等の実績は、平成21年度は入学定員80人に対して志願者数446人で志願倍率は約5.6倍、平成22年度は入学定員80人に対して志願者数510人で志願倍率は約6.4倍、平成23年度は入学定員80人に対して志願者数588人で志願倍率は約7.4倍、平成24年度は入学定員80人に対して志願者数546人で志願倍率は約6.8倍、平成25年度は入学定員80人に対して志願者数654人で志願倍率は約8.2倍で推移している。

また、生命環境科学科における最近5年間の入学者の状況は、平成21年度は入学人数122人、平成22年度は入学人数127人、平成23年度は入学人数84人、平成24年度は入学人数99人、平成25年度は入学人数97人となっている。

3) 知能機械工学科における最近5年間の志願者数等の実績

知能機械工学科における最近5年間の志願者数等の実績は、平成21年度は入学定員100人に対して志願者数571で志願倍率は約5.7倍、平成22年度は入学定員100人に対して志願者数527人で志願倍率は約5.3倍、平成23年度は入学定員100人に対して志願者数640人で志願倍率は約6.4倍、平成24年度は入学定員100人に対して志願者数718人で志願倍率は約7.2倍、平成25年度は入学定員100人に対して志願者数832人で志

願倍率は約 8.3 倍で推移している。

また、知能機械工学科における最近 5 年間の入学者の状況は、平成 21 年度は入学者数 160 人、平成 22 年度は入学者数 126 人、平成 23 年度は入学者数 101 人、平成 24 年度は入学者数 153 人、平成 25 年度は入学者数 120 人となっている。

4) 電気工学科における最近 5 年間の志願者数等の実績

電気工学科における最近 5 年間の志願者数等の実績は、平成 21 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 583 人で志願倍率は約 7.3 倍、平成 22 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 604 人で志願倍率は約 7.6 倍、平成 23 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 592 人で志願倍率は約 7.4 倍、平成 24 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 567 人で志願倍率は約 7.1 倍、平成 25 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 656 人で志願倍率は約 8.2 倍で推移している。

また、電気工学科における最近 5 年間の入学者の状況は、平成 21 年度は入学者数 151 人、平成 22 年度は入学者数 104 人、平成 23 年度は入学者数 89 人、平成 24 年度は入学者数 90 人、平成 25 年度は入学者数 98 人となっている。

◆ 情報工学部

1) 情報工学科における最近 5 年間の志願者数等の実績

情報工学科における最近 5 年間の志願者数の実績は、平成 21 年度は入学定員 120 人に対して志願者数 610 人で志願倍率は約 5.1 倍、平成 22 年度は入学定員 120 人に対して志願者数 630 人で志願倍率は約 5.3 倍、平成 23 年度は入学定員 120 人に対して志願者数 688 人で志願倍率は約 5.7 倍、平成 24 年度は入学定員 120 人に対して志願者数 907 人で志願倍率は約 7.6 倍、平成 25 年度は入学定員 120 人に対して志願者数 919 人で志願倍率は約 7.7 倍で推移している。

また、情報工学科における最近 5 年間の入学者の状況は、平成 21 年度は入学者数 155 人、平成 22 年度は入学者数 155 人、平成 23 年度は入学者数 130 人、平成 24 年度は入学者数 140 人、平成 25 年度は入学者数 143 人となっている。

2) 情報通信工学科における最近 5 年間の志願者数等の実績

情報通信工学科における最近 5 年間の志願者数の実績は、平成 21 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 343 人で志願倍率は約 4.3 倍、平成 22 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 413 人で志願倍率は約 5.2 倍、平成 23 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 373 人で志願倍率は約 4.7 倍、平成 24 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 445 人で志願倍率は約 5.6 倍、平成 25 年度は入学定員 80 人に対して志願者数 444 人で志願倍率は約 5.6 倍で推移している。

また、情報通信工学科における最近 5 年間の入学者の状況は、平成 21 年度は入学者数 109 人、平成 22 年度は入学者数 97 人、平成 23 年度は入学者数 103 人、平成 24 年度は入学者数 104 人、平成 25 年度は入学者数 93 人となっている。

3) 情報システム工学科における最近 5 年間の志願者数等の実績

情報システム工学科における最近5年間の志願者数の実績は、平成21年度は入学定員80人に対して志願者数423人で志願倍率は約5.3倍、平成22年度は入学定員80人に対して志願者数514人で志願倍率は約6.4倍、平成23年度は入学定員80人に対して志願者数493人で志願倍率は約6.2倍、平成24年度は入学定員80人に対して志願者数581人で志願倍率は約7.3倍、平成25年度は入学定員80人に対して志願者数542人で志願倍率は約6.8倍で推移している。

また、情報システム工学科における最近5年間の入学者の状況は、平成21年度は入学者数114人、平成22年度は入学者数123人、平成23年度は入学者数93人、平成24年度は入学者数104人、平成25年度は入学者数99人となっている。

4) システムマネジメント学科における最近5年間の志願者数等の実績

システムマネジメント学科における最近5年間の志願者数の実績は、平成21年度は入学定員60人に対して志願者数313人で志願倍率は約5.2倍、平成22年度は入学定員60人に対して志願者数337人で志願倍率は約5.6倍、平成23年度は入学定員60人に対して志願者数316人で志願倍率は約5.3倍、平成24年度は入学定員60人に対して志願者数367人で志願倍率は約6.1倍、平成25年度は入学定員60人に対して志願者数333人で志願倍率は約5.6倍で推移している。

また、システムマネジメント学科における最近5年間の入学者の状況は、平成21年度は入学者数86人、平成22年度は入学者数70人、平成23年度は入学者数74人、平成24年度は入学者数78人、平成25年度は入学者数80人となっている。

◆ 社会環境学部

1) 社会環境学科における最近5年間の志願者数等の実績

社会環境学科における最近5年間の志願者数の実績は、平成21年度は入学定員150人に対して志願者数498人で志願倍率は約3.3倍、平成22年度は入学定員150人に対して志願者数504人で志願倍率は約3.4倍、平成23年度は入学定員150人に対して志願者数588人で志願倍率は約3.9倍、平成24年度は入学定員150人に対して志願者数539人で志願倍率は約3.6倍、平成25年度は入学定員150人に対して志願者数630人で志願倍率は約4.2倍で推移している。

また、社会環境学科における最近5年間の入学者の状況は、平成21年度は入学者数198人、平成22年度は入学者数191人、平成23年度は入学者数168人、平成24年度は入学者数181人、平成25年度は入学者数181人となっている。

② 定員充足の根拠となる調査結果の概要

● 専門の調査機関による進学意向調査

工学部、情報工学部、社会環境学部の定員変更計画を策定するにあたり、学生確保の見込みについて計量的なデータから検証することを目的として、福岡県を中心とする近県の高等学校に在籍している高校生を対象とした専門の調査機関による進学意向に関するアンケート調査を実施した。

このような福岡県を中心とする近県の高等学校に在籍している高校生に限られた調査の結

果においても、以下に示す通り、工学部の電子情報工学科、生命環境科学科、知能機械工学科、電気工学科、情報工学部の情報工学科、情報通信工学科、情報システム工学科、システムマネジメント学科、社会環境学部の社会環境学科に対する高い進学意向が認められることから、学生確保については十分に見込めるものとする(資料2)。

◆ 工学部

1) 電子情報工学科

電子情報工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として九州工業大学情報工学部電子情報工学科、福岡大学工学部電子情報工学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 11.5%にあたる 403 人が「合格したら第 1 希望で入学したい」と回答している。

2) 生命環境科学科

生命環境科学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として近畿大学産業理工学部生物環境化学科、崇城大学生物生命学部応用生命科学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 12.7%にあたる 444 人が「合格したら第 1 希望で入学したい」と回答している。

3) 知能機械工学科

知能機械工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として福岡大学工学部機械工学科、九州産業大学工学部機械工学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 11.9%にあたる 415 人が「合格したら第 1 希望で入学したい」と回答している。

4) 電気工学科

電気工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として福岡大学工学部電気工学科、九州産業大学工学部電気情報工学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 8.0%にあたる 278 人が「合格したら第 1 希望で入学したい」と回答している。

◆ 情報工学部

1) 情報工学科

情報工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として九州産業大学情報科学部情報科学科、崇城大学情報学部情報科学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 11.3%にあたる 395 人が「合格

したら第1希望で入学したい」と回答している。

2) 情報通信工学科

情報通信工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として近畿大学産業理工学部電気通信工学科、久留米工業大学工学部情報ネットワーク工学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 5.8%にあたる 201 人が「合格したら第1希望で入学したい」と回答している。

3) 情報システム工学科

情報システム工学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として佐賀大学理工学部知能情報システム学科、九州工業大学情報工学部システム創成情報工学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 3.6%にあたる 125 人が「合格したら第1希望で入学したい」と回答している。

4) システムマネジメント学科

システムマネジメント学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 4.0%にあたる 139 人が「合格したら第1希望で入学したい」と回答している。

◆ 社会環境学部

1) 社会環境学科

社会環境学科においては、学部学科の名称、設置の理念、養成する人材像、設置場所、学生納付金、さらに、競合する大学・学部学科等の名称として長崎大学環境科学部環境科学科を示したうえでアンケート調査を実施した結果、福岡工業大学を「受験してみたい」と回答した者のうち、約 11.0%にあたる 384 人が「合格したら第1希望で入学したい」と回答している。

● 進学需要の将来推計

工学部、情報工学部、社会環境学部の定員変更計画を策定するにあたり、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しがあることについての妥当性を示すために、平成 28 年度からの 5 年間について、福岡県の 18 歳人口と福岡県の大学進学率をもとに専門の調査機関による進学意向に関するアンケート調査の数値から進学需要の将来推計（志願者数の予測）を行った（資料 3）。

結果は、以下に示す通り、将来的にも学生確保については、十分に見込めるものとする。

◆ 工学部

1) 電子情報工学科の進学需要の将来推計

電子情報工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 90 人に対して 648 人、平成 29 年度は入学定員 90 人に対して 636 人、平成 30 年度は入学定員 90 人に対して 638 人、平成 31 年度は入学定員 90 人に対して 645 人、平成 32 年度は入学定員 90 人に対して 629 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

2) 生命環境科学科の進学需要の将来推計

生命環境科学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 90 人に対して 686 人、平成 29 年度は入学定員 90 人に対して 672 人、平成 30 年度は入学定員 90 人に対して 674 人、平成 31 年度は入学定員 90 人に対して 682 人、平成 32 年度は入学定員 90 人に対して 665 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

3) 知能機械工学科の進学需要の将来推計

知能機械工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 110 人に対して 600 人、平成 29 年度は入学定員 110 人に対して 588 人、平成 30 年度は入学定員 110 人に対して 590 人、平成 31 年度は入学定員 110 人に対して 597 人、平成 32 年度は入学定員 110 人に対して 582 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

4) 電気工学科の進学需要の将来推計

電気工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 90 人に対して 434 人、平成 29 年度は入学定員 90 人に対して 425 人、平成 30 年度は入学定員 90 人に対して 427 人、平成 31 年度は入学定員 90 人に対して 432 人、平成 32 年度は入学定員 90 人に対して 421 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

◆ 情報工学部

1) 情報工学科の進学需要の将来推計

情報工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 130 人に対して 632 人、平成 29 年度は入学定員 130 人に対して 620 人、平成 30 年度は入学定員 130 人に対して 622 人、平成 31 年度は入学定員 130 人に対して 629 人、平成 32 年度は入学定員 130 人に対して 613 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

2) 情報通信工学科の進学需要の将来推計

情報通信工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 90 人に対して 311 人、平成 29 年度は入学定員 90 人に対して 304 人、平成 30

年度は入学定員 90 人に対して 305 人、平成 31 年度は入学定員 90 人に対して 309 人、平成 32 年度は入学定員 90 人に対して 301 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

3) 情報システム工学科の進学需要の将来推計

情報システム工学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 90 人に対して 182 人、平成 29 年度は入学定員 90 人に対して 178 人、平成 30 年度は入学定員 90 人に対して 179 人、平成 31 年度は入学定員 90 人に対して 181 人、平成 32 年度は入学定員 90 人に対して 176 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

4) システムマネジメント学科の進学需要の将来推計

システムマネジメント学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 65 人に対して 219 人、平成 29 年度は入学定員 65 人に対して 215 人、平成 30 年度は入学定員 65 人に対して 216 人、平成 31 年度は入学定員 65 人に対して 218 人、平成 32 年度は入学定員 65 人に対して 213 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

◆ 社会環境学部

1) 社会環境学科の進学需要の将来推計

社会環境学科における平成 28 年度からの 5 年間の志願者数の予測は、平成 28 年度は入学定員 160 人に対して 566 人、平成 29 年度は入学定員 160 人に対して 555 人、平成 30 年度は入学定員 160 人に対して 557 人、平成 31 年度は入学定員 160 人に対して 563 人、平成 32 年度は入学定員 160 人に対して 549 人と予測されることから、学生確保については、将来的にも十分に見込めるものとする。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

① 学生確保に向けた組織的な取組

学生の募集活動については、常務理事を責任者とする募集戦略会議において、外部環境、内部環境を詳細に分析した上で年度戦略を策定し、全学的な募集活動を推進している。また、ホームページやマスコミを通じた情報発信だけではなく、受験生や保護者との直接の接触を重視していることから、高校訪問をはじめ、オープンキャンパス、模擬講義、団体見学などにおいて、教職協働の全員体制で募集活動を行っている。

これにより、平成 25 年度までに 7 年連続で大学全体の志願者が増加しており、2000 年代に入ってから過去の最高志願者数を更新し続けている。

② 具体的な取組

学生確保に向けた具体的な取組として、本学の募集戦略における根幹となる取組(以下、1)~4)参照)と平成 26 年度からの新しい取組(以下、5)参照)について、下記のとおり具体的に示すこととする。また、募集活動に対する効果、反応を示す資料として、募集活動の実績推移に

ついて、別紙にて示す(資料 4)。

このような学生確保に向けた具体的取組の成果としては、志願者獲得の分母となり得る「接触者数」が、平成 21 年度入試を 100 とした場合、平成 25 年度入試では、1.34 倍となっている。特に接触者の多い「オープンキャンパス」「本学見学会」「進学相談会」において、平成 21 年度入試に比べて、平成 25 年度入試では軒並み参加者が増加しており、本学への志願度が年々高まっていることが推測される。そして、これらの取組の成果が示すように、平成 21 年度入試の志願者 4,230 人に対し、平成 25 年度入試では志願者 5,590 人と大きく増加することができた。

このことから、将来においても十分な志願者及び変更後の収容定員を満たすに十分な入学者を確保できるものと推察することができる。

1) オープンキャンパス

開催日ごとにテーマと内容を変え 5 月、7 月、8 月、9 月、11 月の年 5 回実施している。また、来場者の満足度向上のためにオープンキャンパス内で実施するイベントの質を向上させることを心掛けている。全体としては、高校生をはじめとして保護者や近隣の中学生など広いターゲットに対して、本学の認知度向上とともに、工学、情報工学、社会環境分野の学問領域についての興味喚起を促進させることを目的とする。

2) 高校訪問

訪問目的と対象校・タイミングを考慮した情報提供を実施する。平成 26 年度からは偏差値、志願者数、公私立等、新基準でグループ分けし、担当者が訪問しやすい体制を作る。また、エリア内の協力体制を強化し、伝えたい情報を的確に伝える。

3) 在学生広報活動(FIT 隊)支援

進学相談会や団体見学などの学生募集活動の際に、在学生に直接、学生生活や学科の学び等を語る機会を設定する。また、積極的に女子学生を登用することにより、「工業大学=男子」のイメージ転換と女子受験者の獲得を狙う。

4) 本学見学会

出来る限り来校される高校の出身の学生へ協力を依頼し、先輩の活躍している姿を高校生に見てもらえるような内容を盛り込む。また、高校訪問担当者が同席することにより、進路指導以外の教員との関係構築を図る。なお、来校者へ大学案内など複数の冊子を配布しているが、低学年には情報量が多いため、対象者を意識したリーフレットを作成する。

5) 中国・四国への募集活動

中国・四国エリアで募集活動を展開する。山口県は高校訪問担当者を 1 名→2 名へ増員し、県内で開催される進学相談会で受験生との直接接触を図る。その他の中国・四国エリアはマーケット調査も兼ねて在籍者の出身高校を訪問する。併せて、エリア内で大規模に展開している進学相談会に参加し、高校生へ本学の認知を高める。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

◆ 工学部

工学部では、基礎科学の応用技術を体系的に研究し、学生に技術体系を教授し、社会の求める人材を育成することを目的としており、科学技術の進歩に対応するための基礎能力を備え、その上に立って応用能力を発揮できる技術者を育成するとともに、創意性、独創性をもって問題解決にあたる精神と能力を養うこととしている。また、工業技術の根幹である「モノづくり」の精神を培い、人間性、社会性と理論性にもとづいた広い視野を持ち、グローバル化時代に対応できる技術者を育成するとともに、地域との協力のもとにその産業の発展に貢献し、地域に信頼される技術者を育成することとしている。

1) 電子情報工学科

電子情報工学科では、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行うことができる実践型の人材の養成を目的とする。

2) 生命環境科学科

生命環境科学科では、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・科学的及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。

3) 知能機械工学科

知能機械工学科では、機械分野における基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。

4) 電気工学科

電気工学科では、電気・電子・情報工学の技術を修得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有して、地域産業のニーズを理解し、地域的また国際的連携を意識して活躍できる技術人材の養成を目的とする。

◆ 情報工学部

情報工学部では、情報工学分野で自ら主体的に物事を解決できる能力を有する人材の育成と、そのための教育研究を行うことで科学技術の創造と発展に寄与することを目的として、情報分野の基礎と共に最新の ICT 技術を学び、修得し、それらを実社会で応用できるスキルを身に付けて、高度情報化社会の中で活躍する人材を育成する。具体的には、コンピュータの原理的な仕組みやハードウェアの構成を理解したうえで、プログラムを自由に書ける能力を基本とした丁寧な教育を行い、その上で、各学科での専門教育を通して物事を主体的に解決できる能力を有し、技術者としての善悪を倫理的に判断できる人材を育成することとしている。

1) 情報工学科

情報工学科では、コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。

2) 情報通信工学科

情報通信工学科では、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している情報通信関連技術の習得のもとに、情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。

3) 情報システム工学科

情報システム工学科では、情報処理基盤技術、情報ネットワーク、システム LSI、知能情報処理、ロボット工学、制御工学などの専門知識に加え、技術者倫理、高いコミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力、計画実行力、生涯学習能力を身につけさせるための教育を行い、国際的に活躍できる情報システム技術者の人材の養成を目的とする。

4) システムマネジメント学科

システムマネジメント学科では、高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。

◆ 社会環境学部

社会環境学部では、環境保全に関して、個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを理解し、社会の要請に答えることができる実践型の人材を養成することを目的としており、具体的には、社会環境学の体系を理解し、環境に関連する専門知識を習得するとともに、専門知識を応用して、専門分野の課題を解決する修練を受け、社会環境学を学ぶ者としての社会的責任を自覚し、行動する能力を身につけた人材を養成することとしている。

1) 社会環境学科

社会環境学科では、環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 専門の調査機関等による企業、関係機関等への採用意向調査

福岡工業大学の定員変更計画を策定するにあたり、福岡工業大学における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、福岡工業大学の卒業生の就職実績がある企業の採用担当者を対象として、福岡工業大学の卒業生の採用意向に関するアンケート調査を実施した。

なお、今般の定員変更計画は、既設の学部学科の収容定員を変更するものであることから、福岡工業大学の学部学科における養成する人材について十分に理解している調査対象とすることが望ましいと判断し、過去における福岡工業大学の卒業生の就職実績がある企業の採用担当者を対象として調査を実施した。

その結果、福岡工業大学の卒業生に対する採用意向については、有効回答数 507 社のうち 49.5%にあたる 250 社が「ぜひ採用したいと思う」と回答しており、福岡工業大学で学んだ卒業生に対する採用意向の高さがうかがえることから、人材を受け入れる側の需要と合致しているものと考える。

また、回答企業における平均的な正規社員の採用数を合計した採用総数は 14,898 人で、この採用総数を福岡工業大学の卒業生に対する採用意向別にみた場合、「ぜひ採用したい」との意向を示した企業の採用総数は 8,765 人となっていることから、卒業後の進路については十分な見込みがあるものと考え(資料 2)。

② 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

● 最近 5 年間の求人件数の状況

福岡工業大学における最近 5 年間の求人件数の実績は、平成 21 年度は就職希望者 501 人に対して求人件数 2,101 件で求人倍率は約 4.2 倍、平成 22 年度は就職希望者 556 人に対して求人件数 1,701 件で求人倍率は約 3.1 倍、平成 23 年度は就職希望者 590 人に対して求人件数 1,644 件で求人倍率は約 2.8 倍、平成 24 年度は就職希望者 787 人に対して求人件数 1,810 件で求人倍率は約 2.3 倍、平成 25 年度は就職希望者 800 人に対して求人件数 1,847 件で求人倍率は約 2.3 倍となっている。なお、学科間に求人件数の差異はなく、就職希望者に対して、十分な求人数が確保できているといえる。

このように、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ていることは、福岡工業大学における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものであり、収容定員を増加した場合においても、就職先の確保については十分に見込めるものと考え(資料 5)。

● 収容定員を増加する学部等の就職率の状況

収容定員変更を計画している工学部、情報工学部、社会環境学部における最近 5 年間の就

職率の実績は、以下の通り、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、高い就職率で推移しており、このことは、福岡工業大学における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、収容定員を増加した場合においても、卒業後の進路については十分に見込めるものとする(資料5)。

なお、本学では、プラスワンプロジェクトとして、進路未決定者に対して卒業後 1 年間に限っては、無償の就職支援を行っている。就職率が 100%に達していない学科がある理由として、教員や公務員、特定の技術者など、独自の採用形態を有する職種を希望しているために、卒業時に決定していないことが挙げられる。このような学生も含め進路未決定者に対する支援は、卒業後も引き続き行っていくこととしている。

◆ 工学部

1) 電子情報工学科における最近 5 年間の就職率の実績

電子情報工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 49 人に対して就職者数 40 人で就職率は約 81. 6%、平成 22 年度は就職希望者 63 人に対して就職者数 56 人で就職率は約 88. 9%、平成 23 年度は就職希望者 63 人に対して就職者数 60 人で就職率は約 95. 2%、平成 24 年度は就職希望者 69 人に対して就職者数 68 人で就職率は約 98. 6%、平成 25 年度は就職希望者 75 人に対して就職者数 74 人で就職率は約 98. 7%となっている。

2) 生命環境科学科における最近 5 年間の就職率の実績

生命環境科学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 50 人に対して就職者数 45 人で就職率は約 90. 0%、平成 22 年度は就職希望者 35 人に対して就職者数 32 人で就職率は約 91. 4%、平成 23 年度は就職希望者 51 人に対して就職者数 47 人で就職率は約 92. 2%、平成 24 年度は就職希望者 81 人に対して就職者数 78 人で就職率は約 96. 3%、平成 25 年度は就職希望者 79 人に対して就職者数 73 人で就職率は約 92. 4%となっている。

3) 知能機械工学科における最近 5 年間の就職率の実績

知能機械工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 74 人に対して就職者数 74 人で就職率は 100%、平成 22 年度は就職希望者 93 人に対して就職者数 90 人で就職率は約 96. 8%、平成 23 年度は就職希望者 91 人に対して就職者数 89 人で就職率は約 97. 8%、平成 24 年度は就職希望者 108 人に対して就職者数 108 人で就職率は 100%、平成 25 年度は就職希望者 91 人に対して就職者数 90 人で就職率は約 98. 9%となっている。

4) 電気工学科における最近 5 年間の就職率の実績

電気工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 57 人に対して就職者数 55 人で就職率は約 96. 5%、平成 22 年度は就職希望者 78 人に対して就職者数 73 人で就職率は約 93. 6%、平成 23 年度は就職希望者 63 人に対して就職者数 60 人で就職率は約 95. 2%、平成 24 年度は就職希望者 100 人に対して就職者数 100 人で就職率は 100%、平成 25 年度は就職希望者 79 人に対して就職者数 79 人で就職率は 100% となっている。

◆ 情報工学部

1) 情報工学科における最近 5 年間の就職率の実績

情報工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 79 人に対して就職者数 71 人で就職率は約 89. 9%、平成 22 年度は就職希望者 81 人に対して就職者数 72 人で就職率は約 88. 9%、平成 23 年度は就職希望者 103 人に対して就職者数 97 人で就職率は約 94. 2%、平成 24 年度は就職希望者 105 人に対して就職者数 94 人で就職率は約 89. 5%、平成 25 年度は就職希望者 124 人に対して就職者数 122 人で就職率は約 98. 4%となっている。

2) 情報通信工学科における最近 5 年間の就職率の実績

情報通信工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 41 人に対して就職者数 41 人で就職率は 100%、平成 22 年度は就職希望者 39 人に対して就職者数 36 人で就職率は約 92. 3%、平成 23 年度は就職希望者 43 人に対して就職者数 41 人で就職率は約 95. 3%、平成 24 年度は就職希望者 68 人に対して就職者数 65 人で就職率は約 95. 6%、平成 25 年度は就職希望者 74 人に対して就職者数 73 人で就職率は約 98. 6%となっている。

3) 情報システム工学科における最近 5 年間の就職率の実績

情報システム工学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 38 人に対して就職者数 32 人で就職率は約 84. 2%、平成 22 年度は就職希望者 49 人に対して就職者数 47 人で就職率は約 95. 9%、平成 23 年度は就職希望者 42 人に対して就職者数 40 人で就職率は約 95. 2%、平成 24 年度は就職希望者 68 人に対して就職者数 66 人で就職率は約 97. 1%、平成 25 年度は就職希望者 88 人に対して就職者数 84 人で就職率は約 95. 5%となっている。

4) システムマネジメント学科における最近 5 年間の就職率の実績

システムマネジメント学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 45 人に対して就職者数 42 人で就職率は約 93. 3%、平成 22 年度は就職希望者 37 人に対して就職者数 32 人で就職率は約 86. 5%、平成 23 年度は就職希望者 54 人に対して就職者数 51 人で就職率は約 94. 4%、平成 24 年度は就職希望者 62 人に対して就職者

数 60 人で就職率は約 96. 8%、平成 25 年度は就職希望者 57 人に対して就職者数 56 人で就職率は約 98. 2%となっている。

◆ **社会環境学部**

1) **社会環境学科における最近 5 年間の就職率の実績**

社会環境学科における最近 5 年間の就職率の実績は、平成 21 年度は就職希望者 112 人に対して就職者数 101 人で就職率は約 90. 2%、平成 22 年度は就職希望者 121 人に対して就職者数 118 人で就職率は約 97. 5%、平成 23 年度は就職希望者 111 人に対して就職者数 105 人で就職率は約 94. 6%、平成 24 年度は就職希望者 155 人に対して就職者数 148 人で就職率は約 95. 5%、平成 25 年度は就職希望者 145 人に対して就職者数 138 人で就職率は約 95. 2%となっている。

以上

収容定員を増加する学部等の志願者状況及び入学者状況

区分	項目	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	5ヶ年平均
福岡工業大学							
大学合計	入学定員充足率	(1.20)	(1.25)	(1.12)	(1.30)	(1.43)	(1.26)
	志願者数	5,590	5,218	4,851	4,519	4,230	4,882
	入学者数	1,002	1,045	937	1,086	1,191	1,052
	入学定員	830	830	830	830	830	830
工学部	入学定員充足率	(1.19)	(1.28)	(1.08)	(1.32)	(1.55)	(1.28)
(合計)	志願者数	2,722	2,379	2,393	2,121	2,043	2,332
	入学者数	406	438	369	450	529	438
	入学定員	340	340	340	340	340	340
電子情報工学科	入学定員充足率	(1.13)	(1.20)	(1.18)	(1.16)	(1.20)	(1.17)
	志願者数	580	548	573	480	443	525
	入学者数	91	96	95	93	96	94
	入学定員	80	80	80	80	80	80
生命環境科学科	入学定員充足率	(1.21)	(1.23)	(1.05)	(1.58)	(1.52)	(1.31)
	志願者数	654	546	588	510	446	549
	入学者数	97	99	84	127	122	106
	入学定員	80	80	80	80	80	80
知能機械工学科	入学定員充足率	(1.20)	(1.53)	(1.01)	(1.26)	(1.60)	(1.32)
	志願者数	832	718	640	527	571	658
	入学者数	120	153	101	126	160	132
	入学定員	100	100	100	100	100	100
電気工学科	入学定員充足率	(1.22)	(1.12)	(1.11)	(1.30)	(1.88)	(1.32)
	志願者数	656	567	592	604	583	600
	入学者数	98	90	89	104	151	106
	入学定員	80	80	80	80	80	80
情報工学部	入学定員充足率	(1.22)	(1.25)	(1.17)	(1.30)	(1.36)	(1.26)
(合計)	志願者数	2,238	2,300	1,870	1,894	1,689	1,998
	入学者数	415	426	400	445	464	430
	入学定員	340	340	340	340	340	340
情報工学科	入学定員充足率	(1.19)	(1.16)	(1.08)	(1.29)	(1.29)	(1.20)
	志願者数	919	907	688	630	610	751
	入学者数	143	140	130	155	155	145
	入学定員	120	120	120	120	120	120
情報通信工学科	入学定員充足率	(1.16)	(1.30)	(1.28)	(1.21)	(1.36)	(1.26)
	志願者数	444	445	373	413	343	404
	入学者数	93	104	103	97	109	101
	入学定員	80	80	80	80	80	80
情報システム工学科	入学定員充足率	(1.23)	(1.30)	(1.16)	(1.53)	(1.42)	(1.32)
	志願者数	542	581	493	514	423	511
	入学者数	99	104	93	123	114	107
	入学定員	80	80	80	80	80	80
システムマネジメント学科	入学定員充足率	(1.33)	(1.30)	(1.23)	(1.16)	(1.43)	(1.29)
	志願者数	333	367	316	337	313	333
	入学者数	80	78	74	70	86	78
	入学定員	60	60	60	60	60	60
社会環境学部	入学定員充足率	(1.20)	(1.20)	(1.12)	(1.27)	(1.32)	(1.22)
(合計)	志願者数	630	539	588	504	498	552
	入学者数	181	181	168	191	198	184
	入学定員	150	150	150	150	150	150
社会環境学科	入学定員充足率	(1.20)	(1.20)	(1.12)	(1.27)	(1.32)	(1.22)
	志願者数	630	539	588	504	498	552
	入学者数	181	181	168	191	198	184
	入学定員	150	150	150	150	150	150

※入学定員充足率は、小数点第2位まで(小数点第3位を切捨て)を記載しております。